

— もくじ —

◆ 事業報告書	
【1】法人の概要	・・・2
【2】事業の概要	
1. 平成22年度の主な事業	・・・4
2. 東京純心女子大学の諸活動	・・・6
3. 東京純心女子中学校・高等学校の諸活動	・・・10
【3】財務の概要	・・・14
◆ 資金収支計算書	・・・16
◆ 消費収支計算書	・・・17
◆ 財産目録	・・・18
◆ 貸借対照表	・・・19
◆ 監事による監査報告書	・・・20
◆ 過去5年間の消費収支計算書・貸借対照表	・・・21
◆ 平成23年度 主な事業の計画	・・・23
◆ 平成23年度の予算	
1. 平成23年度予算の概要	・・・25
2. 平成23年度資金収支予算書	・・・26
3. 平成23年度消費収支予算書	・・・26
◆ 平成23年度の主な行事予定	・・・27



《MARIA MAGDALENA》 舟越保武氏作 江角記念講堂

東日本大震災によせて

東京純心女子学園理事 清水 司

平成23年3月11日、東日本を襲った巨大地震と大津波は、多数の死者と長年苦労して築きあげてきた街を一瞬にして破壊し、多くの被災者を出しました。このことについて教皇ベネディクト16世はいたく心を痛み、早速見舞のこたばを送ってくださいました。それは、

「教皇ベネディクト16世は、日本の東北地方沿岸部を突然襲った大地震とそれに続く津波がもたらした惨事に深い悲しみを覚えつつ、今、困難な状態に置かれているすべての被災者のかたがたに寄り添うことを約束します。教皇は亡くなったかたがたのために祈り、悲しみのうちにあるそのご家族と友人の皆様を神が祝福し、力と慰めを与えてくださることを祈り求めます。教皇はまた、今回の災害の犠牲者の救命、救助、支援にあたるすべてのかたがたに祈りをもって連帯することを表明します。」というもので、教皇庁国務長官より日本カトリック司教協議会会長宛てに送られてきました。（カトリック新聞号外3月17日）

また、教皇は3月13日の「お昼の祈り」の後、英語で、東日本大震災の地震と津波による悲惨な映像に深い怖れを覚えられ、世界の人々に向けて、共に犠牲者のために祈るよう呼びかけられ、「ご遺族のかたがたと負傷されたかたがたに慰めがありますように、また勇気ある日本国民を支援するため救援活動に努めておられるかたがたが強められますように。」とまたイタリア語でも「日本で発生した地震とそれに続いた津波の悲惨な映像は私たちを深い恐怖に陥れました。」と語り、「私は尊厳と勇気を持って、この災害のもたらした結果に立ち向かっておられる、愛する日本国民にあらためて霊的に連帯したいと思います。犠牲者とそのご家族、そしてこの恐ろしい出来事によって苦しむすべてのかたがたのために祈ります。賞賛すべき早さをもって支援に努めるかたがたを励まします。心をつなげて祈り続けましょう。」と付け加えられ、私たちに連帯と励ましのお言葉を頂き、祈り続けられることを呼びかけられました。（カトリック新聞3月27日）

悲しみのうちにある人々に寄り添い祈ることは、なにか新しい目に見える行動をとることを私共に求めていると思います。

私共は被災者の痛みや苦しみを直接体験することによって分かち合うことができないけれども、教皇の言われる、被災者に寄り添うことのできる祈りを続けることで、なにか目に見える行動をおこすことができるのではないのでしょうか。

また、この度の大震災で福島第一原子力発電所が被害を受け、放射性物質の飛散が問題と成り、汚染による被害の拡大は多くの周辺住民の避難だけの問題ではない、福島全域の農水産業関係者にまで被害を及ぼし、大きな問題になりつつあります。世界が注目しているこの原発事故の処理がうまくできますよう祈るばかりです。

(2011年5月)

◆ 事業報告書

【1】法人の概要

<設置する学校・学部・学科等>

<大学>

東京純心女子大学は、現代文化学部国際教養学科、こども文化学科、芸術文化学科の3学科を設置し、キリスト教（カトリック）に基づいた教育理念に則り、平和な地域社会と国際社会のよき担い手となる「愛に根ざした真の知恵」を身につけた女性の育成を教育の目的としています。そのために“聖母マリアの姿にならう人格形成” “普遍的真理の探究” “国際社会にいきる教養の体得”を柱とし、豊かな現代文化の創造と発展に貢献できる女性を社会に送り出すことを目指しています。

現代文化学部

◆国際教養学科

広い視野のもとで諸分野の学問を学び、目的を持って課題にあたる国際的な教養を身につけ、独自の個性と感性を育て、総合的かつ弾力的に考える力を、社会や生活文化に生かし発信することのできる人材を育成します。

平成22年度から、従来の国際教養学科、芸術文化学科を統合し、音楽や美術を学べるコースの新設によって、様々な研究や実技授業も可能にした学科となりました。学生は、「国際教養」「英語文化」「美術・デザイン」「キリスト教芸術文化」を学ぶ多様なコースから自分の興味にあわせて選択し、学問研究へと発展させることができます。

学生が実践的、主体的に研究活動ができる授業を各コースから自由に選択し、広い知識と様々な学習、研究方法を学ぶことにより、未知の分野への限らない好奇心を深めていくことができます。

◆こども文化学科

こどもが無限の可能性を開花していけるよう、その支援を行える人材を育成していきます。

目的と目標をもって、自分自身を毎日、少しずつ、高めていくことができるような学びを大切にします。

こども文化学科では、こども・からだ・こころ・あそびをキーワードにして、教育内容・方法を構成しています。こどもたちにとって「驚き」や「喜び」を通して培われる「創造力」や「表現力」は、人間が生き、育つために必要な力です。そのため『野外活動』『からだあそび』『造形あそび』などの体験的な授業、『心理学』や『絵本論』『地域福祉論』などの理論的な授業を体系的に学びます。

それらを通して、現代のこどもたちの育ちのサポートに必要な人材である、【保育コース】では「保育士、幼稚園教諭」を、【初等教育コース】では「小学校教諭、幼稚園教諭」の育成を、【あそび文化コース】では、「ダルクローズ・国内リトミック免許（エレメンタリー）受験資格の取得」を支援していきます。

◆芸術文化学科(平成22年度新入生より募集停止し、国際教養学科に統合)

芸術は、人の心を「揺さぶる」「結ぶ」「癒す」「元気づける」「浄化する」といった様々な力を持っています。芸術文化学科では芸術の持つ様々な力を社会で活かすことのできる人材の育成を目指します。芸術をとおして「考察する」「創作する」「表現する」「指導する」「コーディネートする」「マネジメントに携わる」といった数々の行為を、芸術の「基礎」「鑑賞」「歴史」「福祉」「環境」「運営」などの視点から学ぶことができるのは、文系大学で芸術を学ぶ最大のメリットとなっています。そうして得た学びの成果（教員免許や学芸員などの資格を含む）を社会のいろいろな仕事に活かすことができる女性の活躍を、現代社会は求めています。基礎から高度な専門分野にいたるまでの芸術教育をとおして、「ていねいに」「きびしく」「あたたかく」芸術的にも人間的にも成長させて、社会に送り出していきます。

<中学校・高等学校>

東京純心女子中学校・高等学校はキリストの「み教え」にのっとり、やさしく、かしこい久遠の女性、聖母マリアを理想と仰ぎ、純粋なやさしい心情と高い知性を兼ね備えた献身的な、キリスト教の精神に基づく女性を育成することを目指しています。教養と品格をあわせもつ人間の育成を目的としています。

「知の教育」

体験に基づく学習、主体的な学習を目指し、小規模だからこそ、きめ細かい指導を実現しています。6年間を「導入期」「展開期」「完成期」の3段階に分けた3ステージ制（スーパー3ステージ・システム）でしっかりと実力を伸ばしながら、希望進路に幅広く対応した指導を行います。高校募集を停止したことで、中高の教育の連携を深め、6年間の計画的な学びを実現します。従来の3ステージ制を更に強化、発展させた完全中高一貫教育に特化した新カリキュラム「純心エデュケーションデザイン2010」により、しっかりと実力を伸ばしながら、一人ひとりの目標や希望進路に合わせた指導を行います。

「こころの教育」

カトリックの精神をベースに、自己について考え、普遍的な価値観や世界観、豊かな人間性を身につけます。

朝礼や宗教の時間を通し、聖書の精神を学び、自己について考える機会を持つことで、純心の教育理念が具体化されます。また、労作における作物の栽培や収穫、ボランティア活動など、人や自然とふれあうことで心の成長に繋がっています。

＜学生・生徒在籍状況＞

		平成22年5月1日現在		平成23年5月1日現在	
東京純心女子大学		入学定員	在籍者数	入学定員	在籍者数
現代文化学部	国際教養学科	60名	94名	60名	93名
	こども文化学科	60名	217名	60名	237名
	芸術文化学科	—	67名	—	41名
大学計		120名	378名	120名	371名
東京純心女子高等学校		140名	397名	140名	387名
東京純心女子中学校		140名	388名	140名	370名
合計			1,163名		1,128名

※芸術文化学科は平成22年4月より募集停止

＜役員等の状況 平成22年度＞

理事・監事

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	高野 澄子	監事	榊原 侑一
理事	山野 アヤ子		宮本 久雄
	松尾 弉之		
	岩崎 淳子		
	浦田 カズ代		
	清水 司		
	日野 正晴		

評議員

氏名	
高野 澄子	浦田 カズ代
松尾 弉之	小野田 有
岩崎 淳子	原田 泰宏
清水 司	吉田 紀子
日野 正晴	鵜池 あさえ
	大塚 久代
	宮澤 照子
	和田 晶子
	パウチスタ・マッサ
	栗栖 徳雄

＜教職員の状況＞

(平成22年5月1日現在)

	法人	大学	高等学校	中学校	計
専任教員	—	36名	25名	21名	82名
専任職員	2名	21名	9名	4名	36名
非常勤教員	—	52名	20名	14名	86名
非常勤職員	—	9名	4名	4名	17名
計	2名	118名	58名	43名	221名

＜理事会・評議員会＞

平成22年度は次のように開催しました。

平成22年	5月 22日	理事会・評議員会
	6月 21日	理事会
	10月 18日	理事会
平成23年	2月 26日	理事会・評議員会

＜常任理事会＞

平成22年	4月 20日	平成23年	1月 18日
	5月 18日		2月 9日
	6月 22日		3月 23日
	7月 23日		
	9月 27日		
	10月 26日		
	11月 15日		
	12月 20日		

【2】事業の概要

1. 平成22年度の主な事業

(1) 大学の部

①大学 未来経営戦略推進経費 への取組

平成22年度、文部科学省による補助事業「未来経営戦略推進経費」の対象として本学の計画が採択されました。計画は広報活動の改善による入学定員の確保と、学園財産の有効利活用による帰属収入の確保と、学生満足度の向上、地域や企業、他大学などとの連携による本学の教育研究活動の充実が主な項目で、以下のような取組を行いました。

- ・芸術文化学科の募集停止による規模の適正化と組織改正。
- ・高校訪問の工夫、広報活動の改善等による入学者の確保。
- ・学園食堂を始めとした学園財産の有効利活用による、学生サービスの一層の向上と経営改善策の推進。

これらの取り組みは平成22年度から平成26年度までの5年計画ですが、3年目の平成24年度終了後、日本私立学校振興・共済事業団の特別補助審査委員会による中間評価が行われます。中間評価では、改善計画の3年間の進捗状況等について確認・評価され、4-5年目の計画継続の妥当性が判断されます。

②大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）への取組

文部科学省の大学改革推進事業である「学生支援推進プログラム」の採択に伴い、『女子教養教育を根幹に、学びと進路の総合的一貫指導体制の強化』への取組を行いました（3年計画の2年目）。カリキュラムにおける進路指導体制の充実、学生の進路選択に繋がる資格取得講座の開講、インターンシップの拡充、就職活動のスキルUP効果を目指す一般教養・面接対策講座の実施などさまざまなプログラムを実施しました。また、キャリアカウンセラー等による学生面談体制の強化を図りました。

(2) 中学校・高等学校の部

①入学定員変更 及び 中学校入試におけるSSS入試の実施

中学校入学試験において、合格者の中から成績優秀者約15名を奨学生とし、入学金免除の特典を与えるSSS入試（スペシャル・スカラシップ・スチューデントー奨学生選抜）を実施しました。本校で午後入試として行うことにより、他校の入試日程との関係で本校を受験できなかった受験生に対しても、受験機会を広げるものとなりました。

②高等学校等就学支援金への対応

法令の施行に基づいて平成22年4月より「高等学校等就学支援金」制度が実施されました。制度は、私立高校等に通う生徒が安心して勉学に打ち込めるよう、国が授業料の一部を負担するものです。申請は学校を通して行われるため、メール一斉配信システムや配布物を活用して、制度の内容や手続き等について保護者や生徒に周知し、制度の有効な運用を図りました。

(3) その他の事業

① 東日本大震災への対応

- ・平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、帰宅困難者となった学生生徒を教職員が付き添いのもと校舎に宿泊させました。翌朝交通機関の運行状況や、自宅の安全などを確認後、帰宅の途に就かせました。
- ・東日本大震災の余震や福島第一原子力発電所の事故からくる大規模な電力不足による計画停電、公共交通機関の混乱の影響や、所轄官庁等からの情報提供や周辺地域への配慮、学生生徒及び教職員の安全確保などから、学内外の行事の実施について慎重な対応を行いました。大学では、第3回一般入試の内容変更や、平成23年度新入生を対象とした入学前プログラムの一部、平成22年度学位記授与式及び平成23年度入学式、平成23年度新入生のオリエンテーションキャンプなどの実施を見合わせました。中学校・高等学校では、平成23年3月12日以降の休校措置、後期末試験の最終日試験、春期講習や終業式・平成22年度中学校卒業式の実施を見合わせました。
- ・震災後の調査の結果、震災の影響で学園内の建物の一部に破損がみられました。破損の状況は軽微な内容で補修工事等により対応しました。
- ・電力不足による計画停電への対応として、停電時の業務体制の見直しや、学園全体で徹底した節電対策を行いました。

② 安全対策

- ・ 消防法の改正に伴い、学園における規程を改正し、防火・防災体制の充実を図りました。
- ・ 中学校、高等学校及び大学で火災避難訓練を実施しました。
- ・ 中学校、高等学校、大学に設置されている自動体外除細動器（AED）を最新の機種へと更新しました。中学校、高等学校ではAEDトレーニングユニットを購入し、教職員を対象にAEDをはじめとした応急手当訓練を実施したり、授業などで生徒にAEDの使用等についての講義を行いました。
- ・ 夜間における学園内通行の安全確保のため、外灯の増設工事及び一部をLED照明への切替工事を行いました。
- ・ 大学及び中学校・高等学校では、緊急地震速報受信システム「クルグラット」を導入しました。緊急地震速報受信システムは、地震で主な被害をもたらすS波（主要動）が到達する前に、P波（初期微動）の発生を感知し、それを事前に知らせるシステムです。大規模震災が発生した場合の、校内の被害を防止・軽減することを目的としています。

③ 施設設備関係

- ・ 大学図書館棟の一部トイレの改修工事を実施しました。和式から洋式への変更、洗面台・ドアの改修、床の張替え、トイレ用擬音装置「音姫」の設置などを行いました。
- ・ 学園食堂の改装工事を行いました。木目調パネルによる壁面装飾、壁の塗装、レイアウトの変更などの内装リニューアルにより、学生生徒がより快適に過ごせる環境整備を行いました。
- ・ 大学、中学校・高等学校の教育研究用パソコン、ネットワーク機器、コピー機・プリンタ等の一部を、最新機種のものへ更新しました。
- ・ 大学校舎（3号館）中央階段、中学校舎（2号館2階廊下）の床張替工事を行いました。また、第1体育館、江角記念講堂、大学校舎（3号館・音楽棟）屋上の防水、漏水補強工事を行いました。
- ・ 第1体育館及び第2体育館のカーテンレール及びカーテンの取替工事を行いました。
- ・ 大学特別研究棟の入口階段部に手摺の取り付け工事を行いました。
- ・ 大学クラブ室棟の灯油地下タンクの廃止工事を行いました。

④ 情報の公開

- ・ 大学ホームページに「東京純心女子学園広報No.12」を掲載し、財務情報を公開しました。
- ・ 平成21年度の認証評価で日本高等教育評価機構へ提出した「平成21年度 東京純心女子大学 自己評価報告書本編」及び評価機構による「東京純心女子大学 平成21年度 大学機関別認証評価 評価報告書」を大学ホームページで公開しました。

⑤ 特定資産への繰入れ

施設・設備充実資金として施設設備引当特定資産への繰り入れを行いました。また、退職金支払いの充当資金として退職給与引当特定資産への繰り入れを行いました。

⑥ 学園としての広報活動

八王子・多摩地域における更なる認知度定着を図るため、JR八王子駅・JR立川駅 中央線ホームの看板広告や、西東京バスの路線バスへのラッピングバス広告などを行いました。

2. 東京純心女子大学の諸活動

(1) 純心教育の特色

①「選択自由な科目」

カリキュラムでは卒業要件124単位のうち、必修科目を12単位に絞り、学生の「学びたい」「知りたい」という意欲にあわせて、自由な科目選択を可能としました。

②「セメスター制」

セメスター制により、多くの科目が春学期（4月～9月）と秋学期（10月～3月）ごとに完結し、半年間で単位が取得できます。特に短期間での集中的な学習に適した科目は、週に2回授業を行い集中的に学ぶことで「学び」の成果の向上が期待できます。授業が半期で完結するため、途中で関心が変わった場合にも、学びの軌道修正が容易となりました。

③「読書論」による教養教育の充実

担当教員が心に残る一冊、人生を決めた一冊を教材として、学生とともに読み込み、教員自身の世界観・人生観・教養などと結び付けながら徹底的に論じ合っていきます。教員の人生に深く影響を及ぼした一冊が、今度は学生の人生を動かす一冊になる、本学独自の教養教育となりました。

④「学外研修制度」

「インターンシップ」「リベラルアーツ実習」「語学留学・言語文化海外実習」など、大学の外に出て現場で五感から学ぶと様々な体験的なプログラムを行いました。大学で学んだことと現場での体験を自分の中で整理統合することで、「地球の空気が読める人」「現場を知る『たくましい』人間」へ成長することができます。

(2) 地域社会等との連携

① 他大学との学生交流(単位互換)の実施

設立の理念を同じくするカトリック大学である上智大学との学生交流(単位互換)、大学コンソーシアム八王子における近隣大学との単位互換履修事業を実施しました。相互の交流と協力関係を深め、カリキュラムにバラエティを富ませつつ、教育内容の充実と質の向上に繋がりました。

②「大学コンソーシアム八王子」への取組

八王子地域にキャンパスを有する23の大学等・八王子市・学園都市推進会議・学生委員会・商工会議所等が連携する「大学コンソーシアム八王子」に参画しました。「大学コンソーシアム八王子」は、八王子をまるごとキャンパスと捉え、高等教育の充実、地域社会の発展を図り、魅力ある学園都市づくりを目指しています。

「小中高大連携」「学生ボランティアなどの地域貢献活動支援」「大学連携による防災対策」「加盟大学によるFD・SDプログラムの共同運営、単位互換の拡充」「学生天国や学生フェスティバルなどの学生活動への支援」「学園都市大学いちょう塾による生涯学習の推進」「外国人留学生支援」などさまざまな事業に取り組みました。

③「八王子市子ども体験塾」対象事業としての「こどもの国のクリスマス」実施

子どもたちに夢や感動を与えるさまざまな体験の場を提供することで、次代を担う子どもたちの社会性や自立心、感性を向上させることを目指した「八王子市子ども体験塾」の対象事業として、「こどもの国のクリスマス」を実施しました。市内の幼児から小学生低学年までの児童とその保護者約200名が参加し、クリスマスをテーマに学生とともに、オリジナル楽器の制作とその楽器を使った演奏などのプログラムを体験しました。学生は「トーンチャイムの演奏」「英語劇 ～赤鼻のトナカイ～ の上演」などより、日頃の学びの成果を披露しました。

④ 学校インターンシップ

・中学校英語インターンシップ

学生が八王子市内の中学校で毎週金曜日の放課後に行われる自習教室「まなべば」を訪問し、生徒の英語学習をサポートする「中学校英語インターンシップ」を実施しました。学生は中学生への英語学習指導を通して、自らの英語力を問い直し、その力をより強固なものにしていくことができました。

・小学校インターンシップと高尾英語キャンプ

学生が市内の小学校の「外国語活動」の時間に参加し、児童の学習指導に直接関わる「小学校インターンシップ」を行いました。授業におけるチーム・ティーチング、高尾わくわくヴィレッジでの『英語キャンプ』への参加を通して、学生は児童の学習意欲を喚起する等の工夫・技術を身につけることができました。

⑤ 第3回純心4大学フォーラム

平成22年8月17-18日 長崎で開催された第3回純心4大学フォーラム「『ことばの力』の育成を考える」に参加しました。純心4大学フォーラムは2年に一度「東京純心女子大学、長崎純心大学、鹿児島純心女子大学、鹿児島純心女子短期大学」の4大学が連携し、姉妹校関係の一層の強化と、地域への貢献を目指して開催しています。

⑥ 地域社会連携活動の推進

「そごう八王子で地元大学生による『クリスマスツリー大学アートコレクション』」への参加や、『風の子幼稚園（市内）』園児の園外活動受入れなどによる交流事業、近隣保育園・幼稚園の行事、壁面装飾等への支援事業など、地域における社会連携活動を積極的に推進しました。

(3) 入試広報活動

- ・大学案内は、本学の特色あるカリキュラムが誰に対してもわかりやすく伝えられるよう、できるだけ具体的に説明し、より見やすいよう工夫した内容で作成しました。
- ・本学の建学の精神及び教育理念を十分に理解し本学への就学を強く希望する志願者を対象とした特別入試制度を実施しました。「特待生入試」では特に優秀な成績の志願者に対して学納金の全額免除を、「特別奨学生入試」では優秀な成績でありながら経済的理由により就学の機会に恵まれない志願者に対して学納金の一部減免を行いました。
- ・オープンキャンパスを4/25、5/22、6/19、7/24、7/25、7/31、8/1、8/21、9/11、9/18、10/9、11/6、11/7（入試相談）、2/27と14回（平成22年度中）開催しました。オープンキャンパスの案内学生はユニホームを着用し、案内学生としての自覚と連帯感を高めるようにしました。オープンキャンパス参加者の多くが出願することから、広報活動の重要なイベントの一つとなっています。本学教員による体験授業、学科説明、入試個別相談、キャンパス散歩や、学生食堂・喫茶コーナーの無料体験などを行いました。バッグ、シャープペンシル、ミニタオル、マグネット、レポート用紙などの大学オリジナルグッズを配布し、受験生に本学をより身近に感じてもらうように努めました。また、広告会社の企画する山梨県の高校生を対象としたオープンキャンパス・バスツアーに参画しました。
- ・大学活動紹介ダイレクトメール「GREETINGS FROM TOKYO JUNSHIN! 2010」を作成し、高校の進路指導関係者や受験生などへ計5回送付しました。定期的な情報発信により進路指導関係者や受験生との継続的な関係を構築しました。
- ・指定推薦校を中心に、本学への進学実績のある高等学校への訪問を積極的に展開しました。特にAO入試・推薦入試が実施されるまでの年度前半に集中的な高校訪問を行いました。高校の夏期休業期間を利用して継続的に訪問を行い、高校とのつながりをさらに強めました。
- ・「西東京バスへのラッピングバス広告」「JR八王子・立川・町田駅、西武線玉川上水駅、小川駅看板広告」「京王線・西武新宿線・JR横浜線の窓上広告」「ラジオ局FM-TOKYOでのCM配信」など、特に地元多摩地区における志願者全般に対する本学の知名度向上を目指した広報活動を行いました。
- ・高校生が集まるイベントでのオープンキャンパス告知用「うちの配付」や、高等学校文化祭パンフレットへの協賛広告掲出など、高校生の目に直接触れる広報活動を行いました。
- ・留学生を対象とした秋学期入学試験を行い、秋学期入学制度が開始しました。
- ・平成23年度新1年生入試の結果は、志願者166名、受験者163名、入学者107名と、入学定員の確保に至りませんでした。平成22年度実績よりも入学者は増加しました。

(4) 生涯学習の推進

① 純心スカラー(科目等履修生)の受け入れ推進

18歳以上の女子で、12年の普通教育を修了している人すべてを対象とした、「純心スカラー（科目等履修生）」の受け入れを推進しました。「純心スカラー」は、大学が指定する科目の中から自由に科目を選択し、在学生と同様に授業に参加し単位を取得することができます。履修期間中は図書館・学生ラウンジ・学生食堂等の本学施設を利用できます。平成22年度は34名（37科目）が、一般の学生とともに「純心スカラー」として本学で学びました。

② 八王子市学園都市大学 いちよう塾への提供講座

「だれもがいつでも多様に学び豊かな文化を育むまち」を実現するため、八王子市と八王子地域23大学・短期大学・高等専門学校、企業及び市民などの協働により、18歳以上ならだれでも意欲をもって学ぶことのできる機会の場の提供を目的として開学した市民の大学「いちよう塾」へ、次のように本学の授業科目を提供しました。

講座名	講師	場所	期間
絵本論	大竹 聖美	本学	9/24～1/28（計15回）
現代アメリカ史	松尾 弑之	八王子市学園都市センター	9/24～1/28（計30回）
アメリカ映画史	増田 光	八王子市学園都市センター	9/27～1/31（計30回）

③ 公開講座等

本学では八王子市、八王子市教育委員会や八王子市学園都市文化ふれあい財団などの生涯学習機関と連携を図り

ながら、多くの人々に、大学の研究・教育・施設を開放し生涯学習の場を提供しています。

＜平成22年度に行われた主な公開講座等＞

通年	オープンカレッジ	(本学及び八王子市学園都市センター)
通年	純心こどもの国 リトミックランド (全12回)	(本学)
6/26	江戸仕草で見ていく「わたしたち」の忘れ物 講師：吉澤 良保 (本学教授)	(八王子市学園都市センター)
	「愛と平和のメッセンジャー “マザー・テレサ” Part□ マザーテレサに学ぶ いのち、愛、家庭、人生の役割、平和 講師：千葉茂樹氏 (映画監督)	
12/4	純心こどもの国のクリスマス	(本学江角記念講堂)
12/12	クリスマスコンサート	(本学江角記念講堂)
2/27	いちよう塾への提供公開講座 東京純心女子大学ジョイントコンサート～平和への祈り～	(本学江角記念講堂)

(5) 純心ギャラリー

大学付属のミュージアム施設である純心ギャラリーは「学芸員課程実習の場」「学生・教職員芸術活動発表の場」「資料収集や調査研究の場」等を目的として、教育研究の発展に大いに貢献しています。また、毎年「ギャラリー独自企画展示」などを行い、学内のみならず、多くの来場者に好評を得ています。

＜平成22年度開催された主な展覧会等＞

3/27～4/28	造形美術展 (美術実技選択学生 21年度作品展)
5/17～6/19	コレクション展 I
6/28～7/25	写真部作品展
10/18～11/7	コレクション展 II
11/17～12/2	学芸員課程学生企画展「写真展 ～ Woman, Lady ～」
1/20～2/5	平成22年度 芸術文化学科 卒業制作展

(6) 進路指導

景気低迷の長期化などの影響で、新卒の採用を控える企業が増加する傾向で、学生の就職活動には非常に厳しい状況が続いています。こうしたことから大学における進路指導体制においては、1年次から社会との関わりを意識させることが重要です。そのために幅広い知識と教養を身につけるためのプログラムの構築、進路について明確な目的意識を持つことができるようなアドバイス、資格取得や就職試験対策講座などの実践的な進路指導が欠かせないものとなっています。

本学では文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」として平成21年度に採択された『女子教養教育を根幹に、学びと進路の総合的一貫指導体制の強化』への取組として、「小規模」という特性を活かしたきめ細やかな進路指導を柱として、次のような事業を行いました。

① カリキュラムにおける進路指導

- ・大学生に期待される基礎的な「学びの態度・方法」や「生活マナー」など、高校生から大学生へのスムーズな移行を図り、さらに社会人となる4年後に備えた多様なプログラムを行う『現代文化セミナー』を開講しました。
- ・自分の将来を考えるうえで不可欠な自己分析、社会人として身につけておきたいマナー、基礎的な文書作成等の指導を中心に行う『キャリア・セミナー I』、業界・職種研究、学内企業説明会、企業情報収集の方法や、履歴書・エントリーシートの書き方、面接やSPI対策など実践的な就職活動のノウハウを指導する『キャリア・セミナー II』を開講しました。講義の中では、就職が内定している4年次生やOGを囲んでの就職活動報告会や体験談を聞く機会を設けました。

② 学生が仕事への理解を深め、自らの進路に対する認識、目的意識を確立するうえで絶好の機会となるインターンシップの受入れ先の拡充を進めました。国内の企業に限らず、海外の教育機関、企業、幼稚園・保育施設などに広げて、学生の多様な「学び」のスタイルを支援しました。

③ 「秘書検定」「漢字検定」「保育士模擬試験」など学生の進路選択に繋がる資格取得を支援しました。「就職のための一般教養講座」「面接対策特別講座」「SPI対策集中講座」など、就職活動において実践的な効果が期待できる講座を実施しました。

④ キャリアカウンセラーを増員し、「学び・進路の相談室」における学生相談体制の充実を図りました。

- ⑤ 企業の人事採用担当者に本学の特色及び進路サポート体制、在学生についてより分かりやすく伝えるため、企業向け大学案内を作成し各企業へ送付しました。

＜平成22年度卒業生の就職・進路状況等＞

平成23年3月31日現在 (人数)

学 科	卒業 生 数	就職希望者				就職以外					
		希望者 A	決定者 数B	未 決定者 数	就職 決定率 (B/A%)	小 計	大 学 院	専 門 学 校	留 学 生	研 究 生	そ の 他
現代 英語	18 (25)	16 (18)	7 (9)	9 (9)	43.8% (50.0%)	2 (7)	— (1)	— (—)	— (1)	— (1)	2 (4)
こども 文化	55 (63)	52 (55)	47 (54)	5 (1)	90.4% (98.2%)	3 (8)	— (—)	1 (1)	— (—)	1 (—)	— (7)
芸術 文化	26 (29)	19 (16)	11 (3)	8 (13)	57.9% (18.8%)	7 (13)	— (1)	1 (—)	— (—)	2 (2)	4 (10)
合計	99 (117)	87 (89)	65 (66)	22 (23)	74.7% (74.2%)	12 (28)	1 (2)	2 (1)	— (1)	3 (3)	6 (21)

※ () 内は平成21年度の実績

(7) 江角記念奨学金・学生表彰

創立者の建学の精神を理解、実践し、人物・成績ともに優れた3年次生の学生に対して、「江角記念奨学金」の給付を行っています。平成22年度は3名に対して、当該年度後期分の授業料が減免されました。また、平成22年の活動が他の学生の模範となったとして「平成22年度聖母祭実行委員会」及び各学科から推薦を受けた学生8名に、学生表彰として学長賞が授与されました。

(8) 科学研究費補助金等への取組

平成22年度本学教員によって実施された科学研究費補助金研究事業は以下の通りです。「科学研究費による研究成果の社会還元・普及事業」として、『ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI <韓国の昔話の世界へようこそ～韓国文化体験講座～>』を、平成22年7月31日に本学で開催しました。

学科・職名	氏名	研究種目	研究採択年度	研究課題名等
こども文化学科 准教授	大竹聖美	若手研究B	H19年度採択	植民地朝鮮における近代児童文学の成立と日本児童文学の交渉
				【科学研究費による研究成果の社会還元・普及事業】 『ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI <韓国の昔話の世界へようこそ～韓国文化体験講座～>』(平成22年7月31日 実施)

(9) 自己点検・評価活動と認証評価

平成21年度に日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、評価の結果、大学評価基準を満たしていると認定され、その結果を大学ホームページ等で公開しました。同評価にもとづき、学科の目的の学則への明記など大学内制度の一部修正を行いました。

平成23年度の認証評価から、日本高等教育評価機構の評価基準が、これまでの11基準及び「特記事項」から、「使命・目的」「学修と教授」「経営・管理と財務」「自己点検・評価」の4基準及び「個性・特色に基づく大学独自の基準」への変更が予定されています。

本学の学習環境の更なる向上、本学の特色を活かした教育研究活動を一層の充実させるため、次回の認証評価受審を視野に入れ、新たな基準に則って自己点検評価活動を継続的に行いました。

3. 東京純心女子中学校・高等学校の諸活動

<純心教育>

(1) 知の教育

① カリキュラム等

6年間の中高一貫教育のメリットを生かして、変則二期制・週6日制により、授業時間の確保と行事の多様性を確保しています。きめ細やかな少人数制授業や習熟度別授業、学ぶ目的を明確にして視野を広げる進路教育、さらに体験型の校外実習を組み合わせ、主体的に学ぼうとする感性を養っています。

新カリキュラム『純心エデュケーショナルデザイン2010』が平成22年度から導入されました。一人ひとりの目標や進路に合わせて、しっかりと実力を伸ばす綿密な学習設計と、図書館や行事とのコラボレーション教育が特長です。学校行事のうち特に宿泊行事については、実施学年や時期などの変更を行いました。

【『純心エデュケーショナルデザイン2010』4つの柱】

ア)「習熟度別授業クラスのさらなる展開」

レベルや目的に応じた習熟度別の授業展開を今まで以上に充実させました。「英語」と「数学」はクラス数を増やし、より一層きめ細かい指導を行います。また、展開期（中学3年）の「古典」、完成期（高校2-3年）の選択授業にも習熟度別授業のクラスを導入しました。

イ)〈英語の純心〉+〈数学〉+〈国語〉の強化

カトリック系女子校として、創立当初より英語教育に力を注いできました。新カリキュラムでは、生徒の進学希望を反映して、さらに数学と古典の力を養成することでバランスの良い基礎学力を身につかせます。

ウ) 図書館との協働によるコラボレーション授業

司書目録で選定された約8万冊の蔵書と、使いやすく工夫された図書館の利用度をさらに向上させていきます。また、社会科・家庭科等とのコラボレーション授業、国語科の本に親しませる試みなどにより、図書館と教科の新たな連携を図っていきます。

エ) セレツィオナーレ(選択)制による多様な進路対応

現代の生徒たちが求めるニーズに応え、多様な進路選択を可能にする「7つのモデル」をプランニングしています。そのために必要な科目を幅広く準備して、十人十色の第一志望に対応しています。

② 図書館の充実

図書館は本校の「知の教育」の実践に欠かせない存在となっています。単なる読書場としてだけでなく、本に親しみ自ら学んでいけるような学習センターとしての機能を提供できるように配慮しています。中学・高校それぞれに図書館が分かれており専任の司書や司書教諭がいます。蔵書数は平成23年3月現在で中学が約2万7千冊、高校が約7万7千冊と、全国的に見ても高いレベルを誇っています。また、生徒への年間平均貸出冊数は、中学生で一人あたり30冊以上、高校生で24冊以上と非常に多くの生徒に支持されています。夏・冬・春休みやゴールデンウィーク前などには必ず長期貸出を実施しました。また、4/14-15には中学1年生を対象とした図書館オリエンテーションを行いました。図書館の基本的なルールや知っておいて欲しい機能の説明、本の分類の仕方と実際の分類体験、読み聞かせなどを行いました。

ア) 授業との協働

教科担当と連携し、授業をバックアップする調べ学習や読書指導、実践的な情報リテラシー教育により、自分に必要な情報を取り出し、解釈し、自分なりに表現する力を身につける指導を行いました。また、『純心図書100選』を作成し新中学1年生に配布しました。各教科等の教員や図書館が生徒に推薦する本を『純心図書100選』としてまとめたもので、生徒の読書習慣を一層定着させるものとして積極的に活用されました。

イ) 情報発信とオンラインデータベースの充実

学校行事、校内の話題、季節の話題、時事問題、生徒達の間で流行っている事などを取り上げ、それらに関連した本の貸し出しや展示、新聞・雑誌記事等の展示を行ったコーナー作りをしました。また、図書館通信を発行し、図書館から生徒へ向けての情報発信を行いました。「朝日けんさくくん」「Japan Knowledge」「ポプラディアネット」、さらに読売新聞社の「スクールヨミダス」を導入し、オンラインデータベースの充実を図りました。

ウ) 他校・他団体との情報交換

学校図書館として更なる充実を図るために、他校や他団体の司書などによる図書館見学・訪問を積極的に受け入れや、研究会への参加など積極的に情報交換を行いました。また、生徒間でも平成22年6月19日にサレジオ工業高等専門学校との図書委員による交流会を行いました。

(2) こころの教育

本校ではキリスト教の普遍的価値観と3ステージ制の各段階における様々な活動を通して、「人生とは何か」とい

う大きな課題とじっくり向き合うことにより、常に謙虚に、優しく、周囲と協調して、愛し愛される存在となれる女性の育成を目指しています。

① 労作

「総合的な学習」のさきがけとも言えるべき科目の「労作」では、知性と感性、五感のすべてを使って、自然の摂理や生命のすばらしさ、大切さを学んでいきます。

- ・花々や作物の世話を通して、土にじかにふれる機会を持ち、人間と自然との関わりを体験から学び考察します。
- ・グループ作業により、互いに協力する社会奉仕の精神を養います。
- ・各学年における生産的な活動を通して、勤労の貴さや、ものを育てる心、豊かな感受性、収穫の喜びを味わいます。
- ・手づくりの作物を口にする幸福を通して、食の安全など、地球の抱える諸問題の当事者である意識を高めます。
- ・季節によってさまざまな行事に協力するなど、学校生活全体にバランス良く係わる機会となります。

<各学年における労作の活動内容>

中学1年生	落花生の栽培	高校1年生	大根の栽培 (自家製たくあん作り体験)等
中学2年生	じゃがいもの栽培	高校3年生	サツマイモの栽培(焼いも大会)
中学3年生	陸稲の栽培 (稲刈り・脱穀・精米を行って餅つき大会)	その他	チューリップの植栽など 学園内花壇の手入れ 他

② ボランティア活動

中学1年生の施設訪問、中学2年生の清掃ボランティア、生徒会主催の募金活動や物資援助、点字・手話・車椅子介助の練習、夏休みボランティア、クリスマスの老人ホーム訪問などを行いました。生徒はこれらのさまざまな活動への参加を通して、自分たちにできる身の回りから、人の役に立てることの大切さを学びました。

③ 宗教の授業等

- ・宗教の授業では、キリスト教の倫理観を軸に、賢く優しい女性としての素養を育てています。さまざまな問題や世界平和について理解を深め、調和と奉仕の精神、社会的なルールやマナーを兼ね備えた品格ある女性へと導いていきます。
- ・朝礼時の聖歌と聖書朗読、礼法指導、創立記念日のミサや、中学3年生・高校3年生対象の修養会、各学年に合わせた外部講師による講演会など、本校独自のプログラムを行いました。
- ・高校2年生では3泊4日で長崎に行く学年研修旅行を行いました。創立者シスター江角ヤスと「建学の精神」について学んできたことを、知識として留めるだけではなく、純心のルーツである長崎の地を実際に訪れ、生徒自身の目で確かめ内面化し、あわせて世界平和を考える機会となりました。
- ・8/9(月)長崎原爆の日本校聖堂にて生徒教職員が集い「純心祈りの日」として祈りを捧げました。登校していた教職員・生徒は、原爆投下時間の11:02に黙祷を捧げ、平和への誓いを新たにしました。

(3) 平成22年度の主な学校行事

4月	入学式(4/7)、オリエンテーション(4/9・10)、新入生歓迎会(4/10) 中学1年オリエンテーションキャンプ(4/12・13) オープンキャンパス(4/24)、高校1・2年授業参観(4/30)
5月	中学授業参観(5/1)、高校3年生修養会(5/12)、中学2年多摩動物園実習(5/13) 高校2年生長崎研修旅行(5/10-13)、創立記念式典(5/31)
6月	スポーツ大会(6/5)
7月	高校1年英語海外研修(7/19-8/11)
8月	中学2年イングリッシュキャンプ(8/9-11)
9月	純心祭(9/18・19)
10月	中学3年学習旅行(10/27-30 京都・奈良)、高校1年研修旅行(10/29・30 山梨県富士吉田) 中学1年HONDA発見・体験学習(10/28-30 茂木)、中学2年高遠移動教室(10/28-30) 学年研修(高2テーブルマナー講座 京王プラザホテル八王子、高3-東京ディズニーシー)
11月	芸術鑑賞会(劇団芸優座「ベニスの商人」-江角記念講堂11/24) 高校英語スピーチコンテスト(11/24)
12月	クリスマス会(12/22)、クリスマスページェント(12/23)
1月	高校お別れ会(1/17)、中学3年修養会(1/19)
2月	中学英語スピーチコンテスト(2/16)、中学合唱コンクール(2/23)
3月	マラソン大会(3/1)、高校卒業式(3/5)、 ※東日本大震災のため中学卒業式(3/22)は中止し、平成23年度入学式当日に卒業証書の授与を行いました。

＜進路指導＞

本校では、生徒一人ひとりが希望する大学に合格できる学力をつけることを目指して、必修科目を増やし、総合的な力をつけることのできるカリキュラムと充実した補習・受験対策講座などを実施することで、私立・国公立、文系・理系・芸術系などそれぞれの進路に応じた指導を徹底しました。

- ・高校2年からは国公立・私立、文理・看護系などを組み合わせた「7つのコース」に分け、それぞれのコースごとのクラス編成による特色を持ったカリキュラムを組んでいます。
- ・また高校2年の必修選択（2種類）、高校3年の特別講座（3種類）の選択授業では、生徒それぞれの希望進路に応じた選択学習が可能で、ハイレベルな授業を実現しました。
- ・中学1年から高校2年を対象として、授業内容の復習と定着化を図るため、週に2回火曜日と金曜日には国語・数学・英語の3教科のローテーションによる40分の補習授業を実施しました。
- ・高校3年対象としては大学受験指導として週に4日、午後4時から90分の補習授業を実施しました。
- ・生徒が自分の実力をチェックすることができるように、中1から高3までの各学年において定期的に全国規模の模擬テストを実施しました。また、ファインシステム（ベネッセ）やKe i n e t（河合塾）を活用して、模擬テストの結果やリアルタイムな入試情報をもとにした、効果的な面談や指導を行いました。
- ・高校1年生では、進路について考える1泊2日（10/29・30）の宿泊研修を行いました。「コース選択と科目選択についてのオリエンテーション」「進路適性検査の結果分析」「進路選択に係わる疑問や、不安などについてのディスカッション」を通して、生徒は自分たちの進路についての理解を一層深めることができました。
- ・本校を卒業した大学生を招いて在校生との「在卒懇談会」を行いました。生徒にとっては「志望校の決定時期、方法」「受験勉強の進め方」「受験前の過ごし方」や「大学生活」などについて、貴重な話を直接聞くことのできる充実した体験となりました。
- ・難関大学の受験に積極的に取り組む生徒を対象に、国公立志望者ガイダンス・早慶入試問題研究を行いました。
- ・中学3年生及び高校1～3年生対象で、外部講師による進路ガイダンスを定期的に実施しました。また、保護者を対象とした進路説明会、講演会を実施しました。

＜平成22年度大学等進路状況＞

※（ ）内は平成21年度卒業生の実績

進路内容	人数		比率	
4年制大学	100名	(95名)	80.0%	(78.5%)
短期大学	2名	(0名)	1.6%	(0.0%)
専門学校	4名	(3名)	3.2%	(2.5%)
その他	19名	(23名)	15.2%	(19.0%)
合計	125名	(121名)	100.0%	

＜生徒募集＞

もともと公立志向の強い多摩・八王子地区ですが、教育に対して高い関心を持つ家庭が多くなってきています。受験生本人や保護者、進学塾における指導などの受験校を決める際の志望動機においては、進学実績を重視する傾向が強くなっています。そのような中で、これまで中学校を併設していなかった私立高等学校の一部で新たに中学校を開校する動きが多くみられます。また、学校の共学化、公立中高一貫校の躍進、全国規模の大学付属校の進出なども進み、ここ数年間での中学・高等学校における募集活動は厳しいものとなってきています。更に、長引く経済不況の影響で、私学への進学や出願の校数を控える傾向も一部にみられています。本校では入学志願者の確保に向けさまざまな取り組みを行いました。平成22年度より高等学校での募集を停止しているため、今後中学校入試での入学者数の確保が一層重要となっています。

- ・純心教育の特色や本校の魅力を、志願者や保護者にわかりやすく伝える機会として、オープンキャンパス（428名参加）やクリスマスページェント（476名参加）、学校説明会を開催しました。オープンキャンパス、クリスマスページェントの申し込みには学校ホームページを積極的に活用しました。
- ・インターネットの受験、教育関連サイトの特集ページなどへの広告・学校情報の掲載を積極的に行いました。また、保護者、特に父親へのアピールが期待されるビジネス関連雑誌に、学校紹介記事が掲載されました。
- ・平成22年度よりホームページ担当を新たに配置しました。学校行事の紹介記事等の積極的な掲載でホームページが活性化され、本校のさまざまな情報が入学志願者やその保護者などへ随時配信されました。
- ・合格者の中から成績優秀者15名程度を奨学生として、入学金免除の特典を与えるSSS入試（スペシャル・スカラシップ・スチューデント奨学生選抜試験）を、本校で午後入試として実施しました。また、15：30開

始の入試試験に加えて、16：00開始の回を設け、他校の入学試験も受験する本校志願者へより一層配慮しました。

- ・1次、2次、3次入試はともに「国語」「算数」「社会」「理科」の4科目受験として、SSS入試のみ「国語」「算数」の2科目受験としました。
- ・志願者の利便性に配慮して、郵送による出願受付を行いました。

＜中学入試結果の推移＞

(人数)

	平成23年度生入試 (平成22年度実施)				～参考～ 平成22年度生入試 (平成21年度実施)			
	1次 2/1	SSS 2/1 午後	2次 2/2	3次 2/3	1次 2/1	SSS 2/1 午後	2次 2/3	3次 2/4
募集定員	140名				140名			
応募者数	673名				827名			
	126名	200名	170名	177名	126名	283名	223名	195名
受験者数	435名				547名			
合格者数	213名				296名			
入学予定者	111名				130名			

＜生徒支援＞

(1) 江角記念奨学金

中学校卒業証書授与式において、人物・成績優秀で、クラブ活動を3年間熱意を持って取り組んだ生徒を対象に、「江角記念奨学金（学業奨励賞）」が授与されました。学園の創立者であるシスター江角ヤスの思いを汲んで、努力をした生徒にとって励みとなるもので、平成22年度は3名の生徒が選考されました。

(2) 家計状況の急変等による授業料減免制度

学習意欲が高く本校の建学の精神を深く理解している中学校および高等学校の生徒で、在学中に家計状況の急変等により授業料の納入が困難になった場合、勉学に支障が起らないよう、申請により授業料の一部が減免される制度を実施しました。制度については学校ホームページなどにより周知を行いました。

＜情報化社会への対応＞

高度情報化社会の実現により、中学・高等学校においても情報処理教育は欠かせないものとなっています。本校では、セントメリーホールコンピュータ室に、生徒用としてパソコン46台を整備しています。高校2年生の情報の時間や、理科・数学などの教科の中で必要に応じてパソコンを利用した授業を行いました。また、教師の指導のもとで中学1年生から高校3年生まで毎日放課後16時から17時まで自由に使うことができるように対応しました。平成22年度は教員指導用パソコンの一部を最新機種へと更新しました。今後、コンピュータ室以外でもさまざまな科目でパソコンを利用した授業が進められるように、段階的に情報処理設備を充実させていきます。

校務システムについては、運用状況に応じて毎年度必要に応じて改修を行いながら運用しています。システム化によって、成績処理・学籍処理・入試広報業務など校務作業全般が非常に簡素化されてきています。今後は現在運用されていない証明書等の発行機能などを十分に活用することで、生徒指導の充実化と業務の合理化・共有化を進めていきます。

【3】財務の概要

(1) 資金収支 (P16参照)

① 資金収入

学生生徒等納付金収入は授業料、入学金、実験実習費、教育充実費が主な収入で、947,906,500円となりました。中学及び大学の学生生徒数減少と、中学校・高等学校の入学時納入金の見直しをしたことなどで、前年度よりも減少しています。

手数料収入は入学検定料が主な収入で13,004,040円となりました。大学入試センター試験が他大学との共同実施となったこと、中学校の志願者減少などにより、前年度よりも減少しています。

寄付金収入は6,201,191円となりました。主な収入は、大学後援会からの環境整備費、施設・設備整備費、大学クリスマスコンサート事業費などとしての寄付、中学・高等学校父母の会からの施設・設備整備費などとしての寄付、個人からの寄付が主な収入です。本学園は特定公益増進法人として証明を受けているため、寄付者に対しては寄付について所得税法における減免措置を受けることができる証明書の発行を行っています。

補助金収入は国庫補助金収入及び地方公共団体補助金収入で、433,039,744円となりました。大学芸術文化学科募集停止に伴い、対象経費分の補助金交付額は減少しましたが、「未来経営戦略推進経費」の対象として計画が採択されたことや、「学生支援推進事業（文部科学省）」への取組による補助金収入などにより、前年度と比べて増加しました。

資産運用収入は奨学基金運用収入、受取利息・配当金収入が主な収入で12,438,160円となりました。学校法人には特に安全面に十分配慮した運用が求められています。定期預金を中心とした運用の結果、前年度とほぼ同程度の水準となっています。

事業収入は、補助活動事業収入・受託事業収入によるもので、2,668,591円です。公開講座、中学・高校の春期・夏期講習の受講料などが主な収入で、大学留学生寮の廃止により前年度より減少しています。雑収入は54,326,216円で、教職員の退職に伴う退職金財団からの交付金が主な収入です。

前受金収入が156,260,000円、その他の収入が25,465,405円、資金収入調整勘定が△235,712,825円、前年度繰越支払資金は944,208,528円です。その結果、資金収入の部合計は2,359,805,550円となりました。

② 資金支出

人件費は1,030,476,199円となりました。業務の見直し等により退職者の補充を最低限としたため経常的な人件費は抑制されましたが、退職金支出が多かったことから前年度よりも増加しました。

教育研究経費は187,610,658円、管理経費は82,902,638円となりました。教育研究経費については、大規模な修繕費用がなかったこと、各業務で更なる経費の見直しを行い、焦点を絞ったメリハリのある予算の執行を行ったことなどにより、前年度よりも減少しました。管理経費については、各学校におけるさまざまな広報活動展開の影響などにより、前年度より増加しています。

借入金等利息支出は5,186,574円、借入金等返済支出は28,520,000円となりました。建物等を取得した際の日本私立学校振興・共済事業団等からの借入金利息及び借入金返済のための支出です。

施設関係支出は2,972,883円、設備関係支出は17,888,025円となりました。大学図書館のトイレの一部改修工事、食堂改修工事、パソコン・コピー機等情報関係設備の整備、緊急地震速報システムの整備費などの支出です。

施設・設備充実資金としての第2号基本金組入、退職給与引当特定資産への繰入を含めた資産運用支出は106,109,454円となりました。その他の支出は21,441,535円、資金支出調整勘定は△16,437,682円です。次年度繰越支払資金は893,135,266円なので、資金支出の部合計は2,359,805,550円となりました。

(2) 消費収支 (P17参照)

帰属収入は、学生生徒等納付金、手数料、補助金、寄付金等の学園に帰属する負債とならない収入で、1,472,985,707円となりました。

一般寄付及び特別寄付金に加えて現物寄付として、大学では後援会からのウォータークーラー一式、卒業記念品としてクリスマスイルミネーション、傘の滴取りが寄贈されました。中学校・高等学校では父母の会から中学昇降口のシューズボックス、卒業記念品としての電動マルチシュレッダー・ペーパーカッター機等の寄贈があり、寄付金は9,602,456円となりました。

施設・設備充実資金として第2号基本金の組み入れを行いました。基本金組入合計額は△111,451,589円です。消費収入の合計額は1,361,534,118円となりました。

未払い給与を含めた人件費は1,022,986,036円、減価償却額を含めた教育研究経費は370,631,601円、管理経費は88,172,053円となりました。借入金等利息は5,186,574円、図書などの除却による資産処分差額は1,567,639円となったため、消費支出の部合計は1,488,543,903円となります。

当年度消費支出超過額は△127,009,785円、前年度繰越消費支出超過額は△2,273,028,390円、翌年度繰越消費支出超過額は△2,400,038,175円です。

(3) 財産目録 (P18参照)

土地が467,214,532円、建物が4,727,302,800円、図書が565,343,926円、備品等101,276,878円、その他の基本財産が27,126,431円で、基本財産合計は5,888,264,567円と前年度末よりも減少しています。

現金預金は893,135,266円、積立金が1,916,971,937円、その他の運用財産が59,996,732円となったため、運用財産合計は2,810,107,203円と、前年度末より減少しています。資産総額では8,758,368,502円と前年末より減少しています。

長期借入金は443,850,000円、退職給与引当金は223,164,753円、ファイナンスリース契約による長期未払金が7,278,014円なので、固定負債合計は674,292,767円となりました。短期借入金が28,720,000円、前受金が156,260,000円、未払金が14,666,407円、その他の流動負債が56,037,958円となったため、流動負債合計は255,684,365円です。その結果負債総額が929,977,132円となり、正味財産は7,828,391,370円と前年度末より減少しています。

(4) 貸借対照表 (P19参照)

有形固定資産は5,888,264,567円、その他の固定資産が1,917,111,937円となりました。大学図書館のトイレの一部改修工事、食堂改修工事、パソコン・コピー機等情報関係設備の整備、緊急地震速報システムの整備やトラクターの購入、図書、ウォータークーラー一式、卒業記念品としてクリスマスイルミネーション、傘の滴取り、中学昇降口のシューズボックス、電動マルチシュレッダーなどの受贈と、図書などの除却が行われました。現金預金は893,135,266円、教職員の退職に伴う退職金財団交付金の期末未収入金が昨年度より増えたため、その他の流動資産は前年度末より増加して59,856,732円です。貸借対照表における資産の部合計は8,758,368,502円と前年度末より減少しています。

長期借入金が443,850,000円、退職給与引当金が223,164,753円、大学情報関連機器のリース契約により計上される長期未払金が7,278,014円となったため、固定負債合計は674,292,767円と前年度末より減少しました。返済期限が1年未満となった短期借入金が28,720,000円、その他の流動負債が226,964,365円となり、流動負債は255,684,365円と前年度末より減少しました。施設設備・図書の固定資産取得による増加と、備品・図書の除却に伴う資産処分等による減少で、第1号基本金は9,172,429,545円となりました。第2号基本金は、施設・設備充実資金としての基本金組入80,000,000円により、737,000,000円となりました。その他3号及び4号基本金を合わせて、基本金合計額は10,228,429,545円と前年度よりも増加しました。前年度末繰越消費支出超過額は△2,273,028,390円であったため、翌年度繰越消費支出超過額は△2,400,038,175円となり、貸借対照表における負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計は、8,758,368,502円となりました。

◆ 資金収支計算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(単位：円)

収入の部

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	947,526,500	947,906,500	△380,000
手数料収入	13,044,260	13,004,040	40,220
寄付金収入	8,224,000	6,201,191	2,022,809
補助金収入	412,128,973	433,039,744	△20,910,771
国庫補助金収入	90,357,000	111,267,000	△20,910,000
地方公共団体補助金収入	321,771,973	321,772,744	△771
その他の補助金収入	0	0	0
資産運用収入	12,422,000	12,438,160	△16,160
資産売却収入	0	0	0
事業収入	2,668,591	2,668,591	0
雑収入	53,278,970	54,326,216	△1,047,246
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	155,405,000	156,260,000	△855,000
その他の収入	20,275,578	25,465,405	△5,189,827
資金収入調整勘定	△234,222,500	△235,712,825	1,490,325
前年度繰越支払資金	944,208,528	944,208,528	
収入の部合計	2,334,959,900	2,359,805,550	△24,845,650

支出の部

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,032,124,209	1,030,476,199	1,648,010
教育研究経費支出	201,847,024	187,610,658	14,236,366
管理経費支出	93,409,796	82,902,638	10,507,158
借入金等利息支出	5,186,574	5,186,574	0
借入金等返済支出	28,520,000	28,520,000	0
施設関係支出	3,257,250	2,972,883	284,367
設備関係支出	19,692,203	17,888,025	1,804,178
資産運用支出	106,132,000	106,109,454	22,546
その他の支出	32,859,093	21,441,535	11,417,558
予備費	(4,431,518) 20,568,482		20,568,482
資金支出調整勘定	△23,771,275	△16,437,682	△7,333,593
次年度繰越支払資金	815,134,544	893,135,266	△78,000,722
支出の部合計	2,334,959,900	2,359,805,550	△24,845,650

◆ 消費収支計算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(単位：円)

収入の部

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	947,526,500	947,906,500	△380,000
手数料	13,044,260	13,004,040	40,220
寄付金	10,846,125	9,602,456	1,243,669
補助金	412,128,973	433,039,744	△20,910,771
国庫補助金	90,357,000	111,267,000	△20,910,000
地方公共団体補助金	321,771,973	321,772,744	△771
その他の補助金	0	0	0
資産運用収入	12,422,000	12,438,160	△16,160
資産売却差額	0	0	0
事業収入	2,668,591	2,668,591	0
雑収入	54,176,653	54,326,216	△149,563
帰属収入合計	1,452,813,102	1,472,985,707	△20,172,605
基本金組入額合計	△110,252,750	△111,451,589	1,198,839
消費収入の部合計	1,342,560,352	1,361,534,118	△18,973,766

支出の部

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	1,025,458,649	1,022,986,036	2,472,613
教育研究経費	387,699,361	370,631,601	17,067,760
管理経費	98,679,211	88,172,053	10,507,158
借入金等利息	5,186,574	5,186,574	0
資産処分差額	1,567,639	1,567,639	0
徴収不能額	0	0	0
予備費	(2,388,075) 22,611,925		22,611,925
消費支出の部合計	1,541,203,359	1,488,543,903	52,659,456
当年度消費支出超過額	△198,643,007	△127,009,785	
前年度繰越消費支出超過額	△2,273,028,390	△2,273,028,390	
年度消費支出準備金繰入額	0	0	0
年度消費支出準備金取崩額	0	0	0
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越消費支出超過額	△2,471,671,397	△2,400,038,175	

◆ 財産目録

財産目録

(平成23年3月31日現在)

(単位：円)

I 資産総額	8,758,368,502円
内 基本財産	5,888,264,567円
運用財産	2,870,103,935円
収益事業用財産	0円
II 負債総額	929,977,132円
III 正味財産	7,828,391,370円

区 分	(数 量)	金 額
資 産 額		
1 基本財産		5,888,264,567
土 地 (団地)	92,520.00 m²	467,214,532
(1) 滝山校地	54,611.00 m ²	330,408,293
(2) 丹木校地	1,791.00 m ²	48,324,150
(3) 那須校地	36,118.00 m ²	88,482,089
建 物	32,934.72 m²	4,727,302,800
(1) 校 舎	20,288.64 m ²	3,194,291,972
(2) 図 書 館	1,480.85 m ²	137,741,869
(3) 講堂・体育館	6,542.22 m ²	598,077,652
(4) その他	4,623.01 m ²	797,191,307
図 書	192,358 冊	565,343,926
教 具・工 具・備 品	1,959 点	101,276,878
そ の 他		27,126,431
2 運用財産		2,810,107,203
現 金 預 金		893,135,266
(1) 現金 現金手許有高		1,591,213
(2) 普通預金		170,030,774
(3) その他		721,513,279
積 立 金		1,916,971,937
(1) 利付国債		20,000,000
(2) その他		1,896,971,937
有 価 証 券		0
そ の 他		59,996,732
3 収益事業用財産		0
資 産 総 額		8,758,368,502
負 債 額		
1 固定負債		674,292,767
(1) 長期借入金		443,850,000
日本私立学校振興・共済事業団		133,850,000
その他		310,000,000
(2) 学校債		0
(3) 未払金		7,278,014
(4) 退職給与引当金		223,164,753
2 流動負債		255,684,365
(1) 短期借入金		28,720,000
(2) 前受金		156,260,000
(3) 未払金		14,666,407
(4) その他		56,037,958
負 債 総 額		929,977,132
正味財産 (資産総額－負債総額)		7,828,391,370

◆ 貸借対照表

貸借対照表
(平成23年3月31日現在)

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	7,805,376,504	7,866,328,508	△60,952,004
有形固定資産	5,888,264,567	6,053,700,025	△165,435,458
土 地	467,214,532	467,214,532	0
建 物	4,727,302,800	4,877,059,598	△149,756,798
その他の有形固定資産	693,747,235	709,425,895	△15,678,660
その他の固定資産	1,917,111,937	1,812,628,483	104,483,454
借地権	2,674,000	2,674,000	0
その他の固定資産	1,914,437,937	1,809,954,483	104,483,454
流動資産	952,991,998	967,677,898	△14,685,900
現金預金	893,135,266	944,208,528	△51,073,262
その他の流動資産	59,856,732	23,469,370	36,387,362
資産の部合計	8,758,368,502	8,834,006,406	△75,637,904
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	674,292,767	713,514,522	△39,221,755
長期借入金	443,850,000	472,570,000	△28,720,000
退職給与引当金	223,164,753	230,654,916	△7,490,163
その他の固定負債	7,278,014	10,289,606	△3,011,592
流動負債	255,684,365	276,542,318	△20,857,953
短期借入金	28,720,000	28,520,000	200,000
その他の流動負債	226,964,365	248,022,318	△21,057,953
負債の部合計	929,977,132	990,056,840	△60,079,708
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	9,172,429,545	9,140,977,956	31,451,589
第2号基本金	737,000,000	657,000,000	80,000,000
第3号基本金	200,000,000	200,000,000	0
第4号基本金	119,000,000	119,000,000	0
基本金の部合計	10,228,429,545	10,116,977,956	111,451,589
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
年度消費支出準備金	0	0	0
翌年度繰越消費収入（△支出） 超過額	△2,400,038,175	△2,273,028,390	△127,009,785
消費収支差額の部合計	△2,400,038,175	△2,273,028,390	△127,009,785
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	8,758,368,502	8,834,006,406	△75,637,904

◆ 監事による監査報告書

監 査 報 告 書

平成 23年 5月 9日

学校法人 東京純心女子学園

理 事 会 御 中

学校法人 東京純心女子学園

評 議 員 会 御 中

学校法人 東京純心女子学園

監 事 榊原 侘一 ㊟

監 事 宮本 久雄 ㊟

私たちは、学校法人東京純心女子学園の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて同学園の平成22年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書及び消費収支計算書）を含め、学校法人の業務及び財産に関し監査を行いました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務及び財産に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

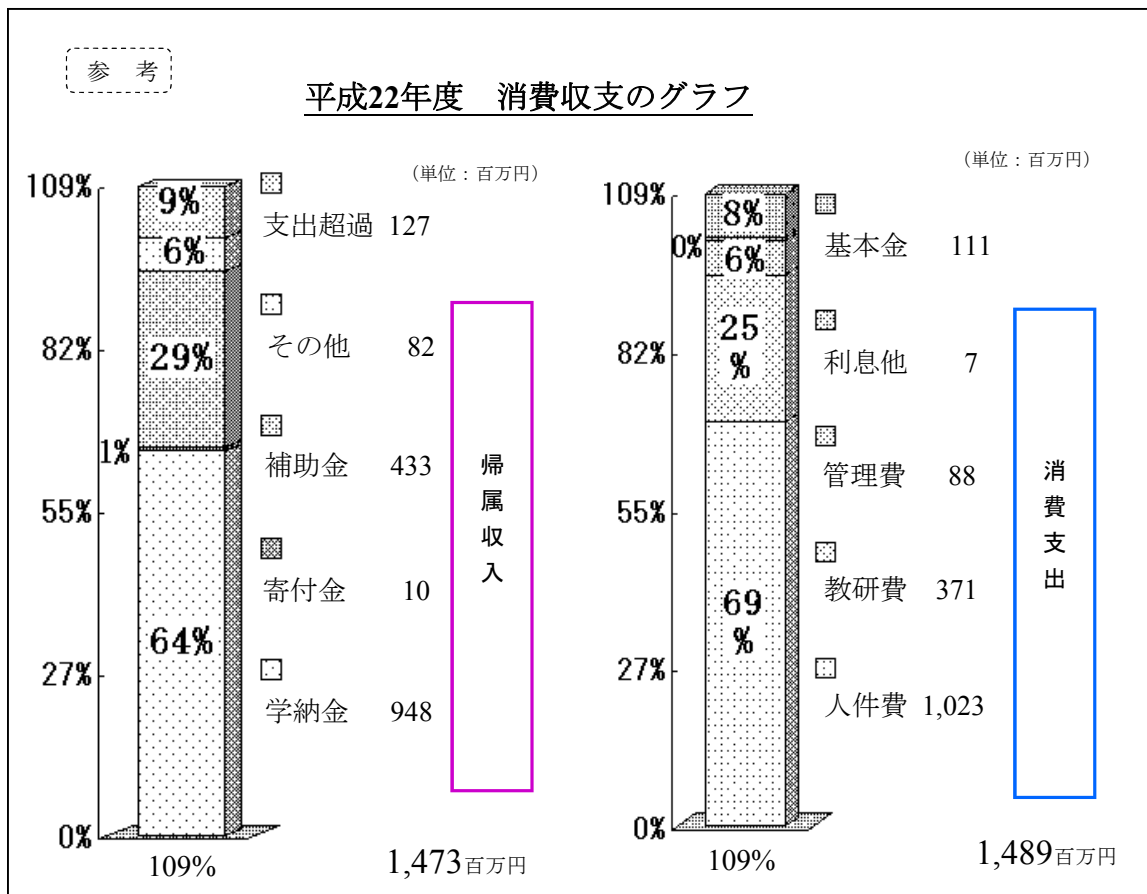
◆ 過去5年間の消費収支計算書・貸借対照表

※ 金額（百万円単位）及び比率等は、いずれも項目ごとに端数を四捨五入しているの
各項目の合計と計欄が一致しないことがあります。

<年度別 消費収支計算書>

(単位：百万円)

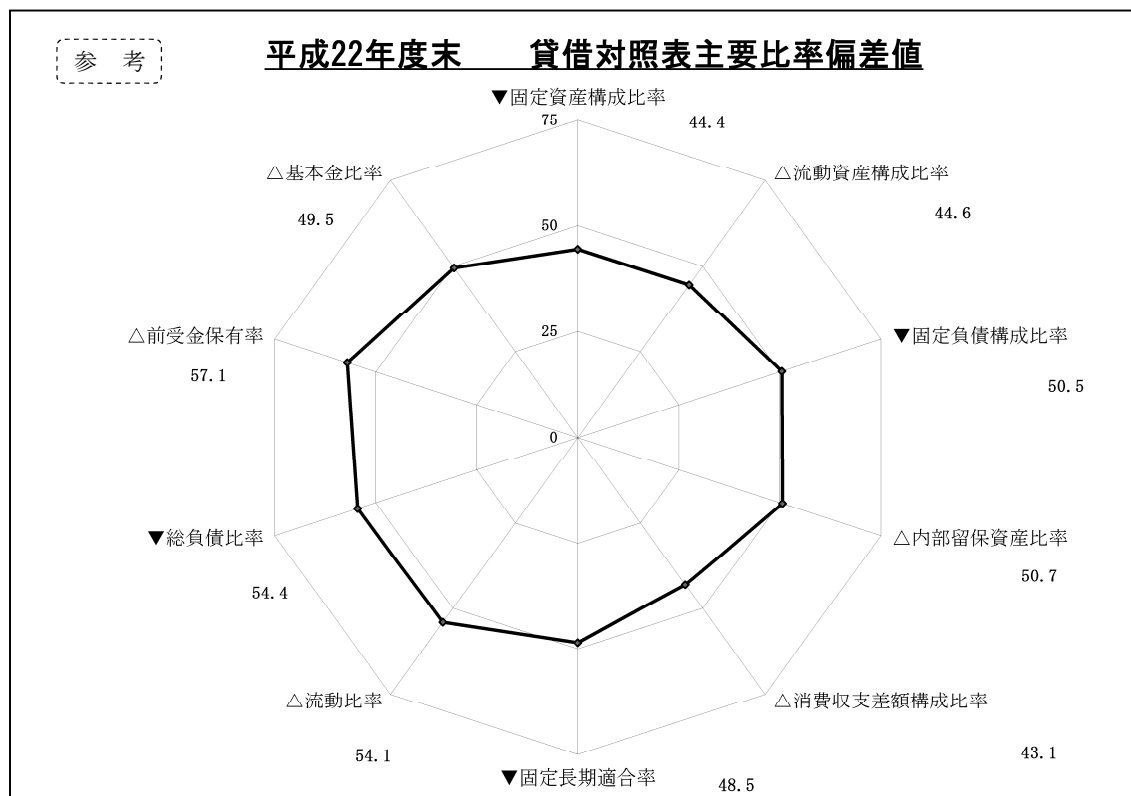
年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
学生生徒等納付金	1,203	1,185	1,114	1,024	948
寄付金	9	14	7	12	10
補助金	423	486	484	428	433
資産運用収入	6	14	20	13	12
その他収入	128	83	73	40	69
帰属収入合計	1,769	1,783	1,698	1,517	1472
基本金組入額合計	△138	△161	△181	△80	△111
消費収入の部合計	1,631	1,622	1,518	1,437	1,361
人件費	1,249	1,192	1,084	1,008	1,023
教育研究経費	407	386	412	380	370
管理経費	79	80	86	88	88
借入金等利息	9	8	7	6	5
その他支出	2	23	45	2	2
消費支出の部合計	1,747	1,690	1,634	1,484	1,488
当年度消費収支差額	△115	△68	△116	△47	△127



＜年度別 貸借対照表＞

(単位：百万円)

年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
固定資産	7,905	7,898	7,903	7,866	7,805
有形固定資産	6,323	6,270	6,195	6,054	5,888
土地	467	467	467	467	467
建物	5,085	5,062	5,025	4,877	4,727
図書	535	544	551	558	565
その他の有形固定資産	236	197	152	151	129
その他の固定資産	1,579	1,628	1,708	1,813	1,917
施設引当資産	449	497	577	657	737
第3号引当特定資産	200	200	200	200	200
その他の固定資産	930	931	931	956	980
流動資産	919	953	941	968	953
現金預金	812	886	895	944	893
その他の流動資産	107	67	46	23	60
資産の部合計	8,824	8,851	8,844	8,834	8,758
固定負債	791	760	730	714	674
流動負債	379	344	303	277	256
負債の部合計	1,170	1,104	1,033	990	930
基本金	9,791	9,952	10,132	10,117	10,228
消費収支差額	△2,137	△2,205	△2,321	△2,273	△2,400
負債、基本金及び 消費収支差額の合計	8,824	8,851	8,844	8,834	8,758



※ 平成22年度版「今日の私学財政 大学・短期大学編 日本私立学校振興・共済事業団」から、
大学法人のうち上下各2.5%を除くデータを参考にしています。

比率名前の前の記号「△」は高い値がよい比率、「▼」は低い値がよい比率とされております。

◆ 平成23年度 主な事業の計画

1. 大学の部

(1) 未来経営戦略推進経費 への取組

文部科学省による補助事業「未来経営戦略推進経費」の対象として平成22年度に採択された、以下のような取組を行います。

- ・芸術文化学科の募集停止による規模の適正化と組織改正。
- ・高校訪問の工夫、広報活動の改善等による入学者の確保。
- ・地元の行政機関や商工団体等との連携緊密化による、学生の地域への密着した就業の促進。
- ・学園食堂を始めとした学園財産の有効利活用による、学生サービスの一層の向上と経営改善策の推進。

(2) 教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）への取組

文部科学省の「大学改革推進事業 学生支援推進プログラム」に採択された『女子教養教育を根幹に、学びと進路の総合的一貫指導體制の強化』への取組（3年計画の3年目）を行います。

カリキュラムにおける進路指導體制の充実、学生の進路選択に繋がる資格取得講座の開講、インターンシップの拡充、就職活動のスキルUP効果を目指す一般教養・面接対策講座などを実施します。また、キャリアカウンセラー等による学生面談体制の強化を図ります。

(3) 他大学との学生交流（単位互換）の実施

設立の理念を同じくするカトリック大学である上智大学との学生交流（単位互換）、大学コンソーシアム八王子における近隣大学との単位互換履修事業を実施します。学生は履修料免除で相互の大学の授業を受講でき、取得した単位は卒業要件の単位として認められます。交流によって、相互の大学の協力関係が深まり、カリキュラムにバラエティがもたらされ、教育内容の充実と質の向上に繋がっていくことが期待されます。

(4) 高大連携事業

東京都立八王子北高等学校及び都立砂川高等学校との高大連携事業を実施します。高等学校の生徒が、科目等履修生制度を利用して本学の授業を受講します。本学では、高校生に対して継続的に授業を実施し、高校教育と直接触れることにより、高校教育の現状に対する理解が深まり、本学における教育環境・指導體制の見直しや、一層の充実へとつなげていくことができます。高等学校では、生徒がより発展的・専門的な学習を体験できるとともに、生徒の学習に対する意欲や目的意識の向上、進路選択の支援につながっていくことも期待されています。

2. 中学校・高等学校の部

(1) 中学校 SSS入試の実施

中学校入学試験において、合格者の中から成績優秀者15名程度を奨学生とし、入学金免除の特典を与えるSSS入試（スペシャル・スカラーシップ・スチューデント奨学生選抜）を実施します。本校で午後入試として行うことにより、他校の入試日程との関係で本校を受験できなかった受験生に対しても、受験機会を広げるものとなります。

(2) 中学校・高等学校 新カリキュラム「純心エデュケーショナル デザイン 2010」本格導入

新カリキュラム『純心エデュケーショナルデザイン2010』が平成23年度から本格的に導入されます。一人ひとりの目標や進路に合わせて、しっかりと実力を伸ばす綿密な学習設計と、図書館や行事とのコラボレーション教育が特長です。カトリック系女子校として、創立当初より国際化時代における英語教育に力を注いできた本校ですが、新カリキュラムでは、生徒の進学希望を反映して、さらに数学と古典の力を養成することでバランスの良い基礎学力を身につけることができるよう指導します。また、学校行事のうち特に宿泊行事については、実施学年や時期などの変更を行います。

(3) 高等学校等就学支援金への対応

平成22年度より実施された「高等学校等就学支援金」制度への対応を行います。制度は、私立高校等に通う生徒が安心して勉学に打ち込めるよう、国が授業料の一部を負担するものです。メールや配信システムや配布物により、制度の内容や手続き等について保護者や生徒に周知し、制度の有効な運用を図って行きます。

3. その他の事業

(1) 主な施設・設備の整備

- ① 江角記念講堂屋上の防水シート部分の補修工事を行います。
- ② 第2体育館の屋根及び内壁の補強工事を行います。またバスケットボールのルール改正に伴い、第1体育館及び第2体育館の床ライン改修工事を行います。
- ③ 大学クラブ棟屋外階段手摺や、高校校舎昇降口の床及び庇、中学校・高校校舎の渡り廊下の床など、修繕が必要な箇所の補修工事を行います。
- ④ 井戸の改修工事を行います。
- ⑤ 学園食堂の内装リニューアル工事を行います。

(2) 東日本大震災への対応

- ① 大学では被災した学生を対象に、学納金等の減免を行います。ホームページ等で周知し、学生の申請に基づいて所定の手続により決定します。減免については平成24年度新入生についても実施します。学内では東日本大震災被災者に対する義援金の募集を行います。寄せられた義援金は本学被災学生及び一般の被災者へ寄付される予定です。
- ② 中学校・高等学校では、希望に応じて被災地からの生徒の受入体制を整えました。生徒会を中心とした募金活動を行います。また吹奏楽部ではチャリティー・ミニコンサートを行います。寄せられる義援金は被災地の中高生へ寄付される予定です。
- ③ 東日本大震災の影響により、各学校の学内外の行事一部について中止または延期の措置を講じました。

(3) 寄付金の募集

卒業生や後援会などを中心として、広く寄付金の募集を行います。募集に当たっては、本学園への一定の寄付金が税金控除の対象として認められることをホームページ等により周知していきます。

(4) 情報の公開

- ① 「東京純心女子学園広報No.13」をホームページに掲載し、財務情報を公開します。
- ② 大学ホームページでは、「収容定員及び在籍数、アドミッションポリシー」「卒業後の進路」「教育課程」等の教育情報を、大学の事業概要として公開します。

(5) 学園創立50周年記念にむけて

平成26年の学園創立50周年にむけて周年記念事業積立を行います。また記念誌発行にむけた準備を行います。

(6) 引当特定資産の設定

- ① 施設・設備充実資金として施設設備引当特定資産（2号基本金）を設定します。
- ② 退職給与引当特定資産の充実を図ります。毎年度一定額の繰入を行い、計画最終年度平成25年度には退職給与引当特定資産を本学園の退職給与引当金に対して50%程度の額とします。

(7) 学園としての広報活動

八王子・多摩地域における更なる認知度定着を図るため、JR八王子駅・JR立川駅中央線ホームの看板広告や、「八王子地区及び立川地区でのラッピングバスによる広告掲出」を行います。

◆ 平成23年度の予算

1. 平成23年度予算の概要

<資金収支計算書>

(1) 収入の部

学生生徒等納付金収入は943,965,400円と前年度よりも減少しています。平成23年度5月1日現在の中学校・高等学校の生徒在籍数が前年度よりも減少しているためです。手数料収入は13,169,260円です。制服委託販売手数料により前年度よりも増加しています。寄付金収入は7,822,000円となります。寄付についてはホームページで広く一般に募集を行います。募集にあたっては、寄付者に対しては寄付について所得税法における減免措置を受けることができる特定公益増進法人として証明書発行を行うことを周知します。補助金収入は406,461,000円と前年度よりも減少しています。中学校・高等学校の生徒数が減っているためです。資産運用では安全面に十分配慮した運用を行っていきます。運用利率の低下が見込まれるため資産運用収入は7,455,000円と前年度より減少しています。事業収入は1,990,000円となります。東日本大震災の影響で中学校・高等学校の春期講習が中止となったことなどで前年度よりも減少しています。雑収入は27,504,000円となります。教職員の退職に伴う退職金財団からの交付金が主な収入です。前受金収入が162,155,000円、その他の収入が55,570,325円、資金収入調整勘定が△184,110,000円となります。前年度繰越支払資金が893,135,266円なので、資金収入の部合計は2,335,117,251円となります。

(2) 支出の部

人件費支出は950,669,348円です。定年退職者の退職金支出を計上しています。教育研究経費は223,287,500円、管理経費は83,006,000円です。江角記念講堂屋上の屋根防水シート部分の補修工事及び井戸の改修工事費などを、教育研究費に計上しています。借入金等利息支出は4,163,010円、借入金等返済支出は28,720,000円となります。建物等の取得にかかる日本私立学校振興・共済事業団からの借入金及び借入金利息の支出です。施設関係支出は2,520,000円です。江角記念講堂外部階段入口の手摺設置工事などによる支出です。設備関係支出は14,440,000円です。サーバ機、ネットワークスイッチ、パソコン等情報関連機器などの更新や、その他教育研究用機器備品、図書などの購入を予定しています。資産運用支出は111,673,000円です。施設・設備充実資金としての第2号基本金組入、退職給与引当特定資産への繰入を行います。その他の支出が22,066,407円、予備費が25,000,000円です。資金支出調整勘定が△22,660,456円なので、次年度繰越支払資金が892,232,442円となり、資金支出の部合計は2,335,117,251円となります。

<消費収支計算書>

(1) 収入の部

学生生徒等納付金は943,965,400円、手数料は13,169,260円です。現物寄付を含めた寄付金は8,322,000円です。補助金は406,461,000円、資産運用収入は7,455,000円、事業収入は1,990,000円です。退職給与引当金戻入額を含めた雑収入は39,563,871円となるので、帰属収入合計は1,420,926,531円となります。施設・設備充実資金として第2号基本金等の組み入れを行なうことなどから、基本金組入額合計は△90,353,315円となります。したがって消費収入の合計は1,330,573,216円となります。

(2) 支出の部

退職金繰入額を含めた人件費が969,602,409円、減価償却額を含めた教育研究経費が406,247,468円、管理経費が88,304,288円となります。借入金等利息が4,163,010円、資産処分差額が1,400,000円、予備費が25,000,000円となります。消費支出の部合計が1,494,717,175円なので、当年度消費支出超過額は△164,143,959円となります。前年度繰越消費支出超過額が△2,400,038,175円なので、翌年度繰越消費支出超過額は△2,564,182,134円となります。

参 考

帰属収入合計	: 全ての収入のうち学校法人の負債(借入金や預り金等)とならない収入。
基本金組入額合計	: 学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして帰属収入のうちから組み入れた金額。
消費収入の部合計	: 帰属収入合計から基本金組入額合計を控除した金額。
当年度消費収入(△支出)超過額	: 消費収入の部合計から消費支出の部合計を差し引いた金額。

2. 平成23年度資金収支予算書

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(単位：円)

収入の部		支出の部	
学生生徒等納付金収入	943,965,400	人件費支出	950,669,348
手数料収入	13,169,260	教育研究費支出	223,287,500
寄付金収入	7,822,000	管理経費支出	83,006,000
補助金収入	406,461,000	借入金等利息支出	4,163,010
国庫補助金収入	85,292,000	借入金等返済支出	28,720,000
地方公共団体補助金収入	321,169,000	施設関係支出	2,520,000
その他の補助金収入	0	設備関係支出	14,440,000
資産運用収入	7,455,000	資産運用支出	111,673,000
資産売却収入	0	その他の支出	22,066,407
事業収入	1,990,000	予備費	25,000,000
雑収入	27,504,000	資金支出調整勘定	△22,660,456
借入金等収入	0		
前受金収入	162,155,000		
その他の収入	55,570,325		
資金収入調整勘定	△184,110,000		
前年度繰越支払資金	893,135,266	次年度繰越支払資金	892,232,442
収入の部合計	2,335,117,251	支出の部合計	2,335,117,251

3. 平成23年度消費収支予算書

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(単位：円)

消費収入の部		消費支出の部	
学生生徒等納付金	943,965,400	人件費	969,602,409
手数料	13,169,260	教育研究費	406,247,468
寄付金	8,322,000	管理経費	88,304,288
補助金	406,461,000	借入金等利息	4,163,010
国庫補助金	85,292,000	資産処分差額	1,400,000
地方公共団体補助金	321,169,000	予備費	25,000,000
その他の補助金	0		
資産運用収入	7,455,000		
事業収入	1,990,000	消費支出の部合計	1,494,717,175
雑収入	39,563,871	当年度消費収入(△支出)超過額	△164,143,959
帰属収入合計	1,420,926,531	前年度繰越消費収入(△支出)超過額	△2,400,038,175
基本金組入額合計	△90,353,315	基本金取崩額	0
消費収入の部合計	1,330,573,216	翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△2,564,182,134

◆ 平成23年度の主な行事予定

	東京純心女子大学		東京純心女子中学校・高等学校	
4月	2日 3日 6日 8日 11日 23日	入学式 ※中止 オリエンテーションキャンプ(～4日) ※中止 オリエンテーション(～7日) 授業開始 造形美術展(～5月21日) オープンキャンパス	1日 7日 8日 11日 20日 24日 27日	春期講習(～3日) ※中止 入学式 始業式 新入生歓迎会 中1オリエンテーションキャンプ(～12日) 高校危険回避講演会 オープンキャンパス ※延期 生徒総会
5月	11日 21日 27日 31日	学生総会 オープンキャンパス STEP研修(こども文化) 創立記念行事 コレクション展Ⅰ(～6月11日)	6日 7日 11日 11日 21日 31日	授業参観(高1-2) 授業参観(中1-3) 高2長崎研修(～14日) 高3修養会・中学危険回避講演会 父母の会総会 創立記念式典
6月	18日 21日 26日	オープンキャンパス HOP研修(こども文化) コレクション展Ⅱ(～7月2日) 公開講座 いちよう塾提供講座 江戸仕草をフィルターにして今時の人間関係を考える	1日 4日 25日 29日	防災帰宅経路別集会 スポーツ大会 全校保護者懇談会 第1回学校説明会
7月	1日 23日 28日 30日	国際教養キャンプ(～2日) オープンキャンパス(～24日) 春学期授業終了 オープンキャンパス(～31日)	17日 19日 20日	前期終業式 高1海外研修(～8月11日) 夏期講習・前期(～29日)
8月	27日 28日	オープンキャンパス オープンキャンパス	8日 9日 22日 30日	中2イングリッシュキャンプ(～10日) 純心祈りの日 夏期講習・後期(～27日) 後期始業式、帰宅経路別訓練
9月	10日 11日 18日 20日 22日 26日	オープンキャンパス 野外文化活動 夏キャンプ実習(～13日) オープンキャンパス 高尾英語キャンプ(～21日) 学位記授与式(9月卒業生) 秋学期授業開始	17日	純心祭(～18日)・第2回学校説明会
10月	8日 8日 20日 26日	オープンキャンパス JUNP研修(こども文化) 東京純心アート・フェスティバル(～11月6日) 卒業演奏中間発表会(芸術文化) 卒業論文・卒業実践報告中間発表(国際教養)	12日 22日 26日 27日 28日	第3回学校説明会 第4回学校説明会 中3学習旅行(～29日) 中1ホンダ発見体験学習(～29日) 中2高遠移動教室(～29日) 高1学年研修(～29日)・高2-3学年研修
11月	5日 9日 11日 16日	聖母祭(～6日)、オープンキャンパス(5～6日) 推薦入試① 卒業制作中間審査(芸術文化) 学芸員課程学生企画展(～12月3日)	9日 12日 16日 18日	生徒会役員選挙 第5回学校説明会 高校スピーチコンテスト 芸術鑑賞会(劇団四季)
12月	3日 11日 14日 15日	こどもの国のクリスマス クリスマスコンサート、オープンキャンパス 推薦入試② クリスマスの集い	4日 22日 23日	第6回学校説明会(小6入試体験会) クリスマス会 クリスマスページェント
1月	12日 20日 30日 31日	卒業制作本審査(芸術文化) 卒業制作展(芸術文化学科・こども文化学科～2月4日) 卒業論文発表会(芸術文化) 秋学期授業終了日 一般入試①、特待生・特別奨学生入試①	14日 16日 18日	センター試験(～15日) 高校お別れ会 中3修養会
2月	4日 10日 13日 25日 27日	卒業論文・実践報告発表会(国際教養) 卒業論文等発表会(こども文化) 野外文化活動 冬キャンプ実習 (～18日までの間で2泊3日) オープンキャンパス 一般入試②、特待生・特別奨学生入試②	1日 15日 22日 25日	中学入試(1～3日) 中学スピーチコンテスト 中学合唱コンクール マラソン大会
3月	17日 25日	学位記授与式、卒業演奏会 一般入試③	3日 22日	高校卒業式 中学卒業式・後期終業式



この学園章は、学園の保護者である聖母マリアの「けがれのない心」を表しています。中心に「心」という文字をデザインし、横線はその御徳を意味しています。

東京純心女子学園 広報 No.13

発行 平成23年6月

学校法人 東京純心女子学園

〒192-0011 東京都八王子市滝山町2-600

TEL. 042-691-1345 FAX 042-691-1325